

## 表紙のことば

写真と文：大塚雅貴

初夏の爽やかな風が新芽を揺らしています。標高およそ300mの緩やかな斜面には緑鮮やかな茶畑が広がっていました。奈良市月ヶ瀬は、奈良県有数の茶の生産地。水はけの



よい真砂土、そして霧が発生しやすい風土が栽培に適しています。

シートをかぶせる作業をしていたのは井ノ倉光博さん(54)、幸さん(49)夫妻。上質なお茶を作るためには時間と労力を惜しみません。子どもの頃から茶に囲まれていたという井ノ倉さんは11代目。高校卒業後は静岡県にある「国茶」(農林水産省茶業試験場)で

2年間研修生として学び、お茶の栽培を継いだそうです。「このままではいかん、市場が求めているものを作らなきゃ」と思ったのは9年ほど前でした。自らお茶の産地を歩き消費者の声を



入れた後の茶葉は、ボン酢やおひたして楽しめる

聞きました。「消費者に納得してもらおうお茶を作ろう」「できれば自ら入れたお茶を感じてもらおう」。そう思って「SHOP 粹翠」を構えました。

落ち着いた空間にジャズが流れる店内。急須の中の茶葉が開き、ゆっくりと注いでいきます。一番うれしいのは、入れたお茶を目の前で「おいしい、この味スゴイ」と言われる瞬間です。

## JAグループ 共通コンテンツ

食・農・地域の暮らしを支えるJAの存在意義や取り組みを紹介するJAグループ共通コンテンツ(JA新聞連『JA広報通信』にて提供中)。今年度は、「変わるJA 広がる地域のきずな」をテーマに毎月Q&A方式で解説します。JA広報誌への掲載等により、組合員や地域住民への情報提供資料として、ぜひ活用ください。

# 変わるJA 広がる地域のきずな

監修=広島大学  
助教 小林 元

## Q、「農協改革」と「自己改革」って同じもの？

**A、政府の「農協改革」を受け、JAは地域に必要とされる組織になるための「自己改革」に取り組んでいます。**

「農協改革」は、農業の成長産業化を進めるため、規制改革推進会議の提言を受けて政府が進めています。その特徴は、農業協同組合は農業者を対象とする営農経済事業への特化を求めていることです。2016年4月に改正された農業協同組合法は、JAは「農業所得の増大に最大限の配慮をしなければならない」と規定しています。

これに対し、JAは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つを基本目標とする「自己改革」に取り組んでいます。JAは、農業を食や地域を含めて幅広く捉えています。営農経済事業や、信用事業、共済事業、生活購買事業、福祉事業など総合的な事業と活動を通じて、組合員・地域住民が一体となった豊かな地域社会を実現するために、「自己改革」を進めています。

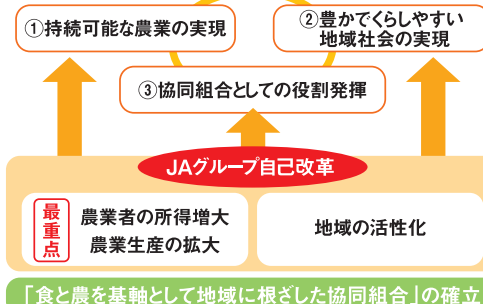
### 「農協改革」と「自己改革」の比較

国が主導で進める **農協改革**  
農業に特化した職能組合を志向

国は  
農業に特化

JAが自ら取り組む **自己改革**  
農業を基本に地域にも貢献する  
協同組合を目指す

JAは  
農業+地域



耕そう、大地と地域の未来。